

4 派遣報告

(1) 派遣全体を通じて



姉妹都市ボッパルトを訪ねて

青梅市副市長

池田 央

7月22日早朝、夏の明るい日差しの中、青梅市役所で竹内市長をはじめ市の職員、各学校長、青梅・ボッパルト友好協会の方々の見送りを受け、私たちは、期待と不安を胸に羽田空港に向かいました。

青梅市とボッパルト市は、昭和40年9月に姉妹都市提携を結び、今年が49年目となります。今回は「第15回青少年友好親善使節団」の団長として、青梅市在住の中学生10人と高校生3人、引率2人の総勢16人で、7月22日から31日までボッパルト市を訪問してまいりました。私にとっては、初めての姉妹都市訪問になりました。

羽田から12時間のフライトで、フランクフルト国際空港に着きました。ほとんどの団員にとって、初めての外国旅行、それもドイツ語ということで、一同緊張の面持ちで入国審査を受け、出口に向かうと、ボッパルト市の職員やボッパルト・青梅友好協会の方々が、青梅市の旗を振って、笑顔で出迎えてくださいました。

空港からバスで2時間、ライン川沿いの美しい街並みを抜け、有名なローレライの岩を過ぎ、一段と美しい街並みに入ったと思ったら、姉妹都市ボッパルトでした。

到着すると、そこには、ベアシュ市長、ホームステイ先のご家族、友好協会の皆さんが待ち受けてくださり、記念撮影ののち、団員はそれぞれのホームステイ先へと向かって行きました。

翌朝からは、ボッパルト市内の史跡、高校、企業などの見学を行いました。毎日集合場所へ、ホームステイ先の家族が送迎して下さり多くの方が日中も一緒に行動してくれました。

移動中のバスの中でも、日に日に団員達が、ホームステイ先の家族と談笑する場面が増え、友好関係が深められていったことを実感いたしました。

一方、ボッパルトでは、日本の中学生くらいの年齢の子供たちのほとんどが、母国語のほかにも英語の会話が可能であり、体格的、精神的にも、使節団の中学生との差を感じたことも事実です。

私をはじめ、使節団の全員が、温かく親切なボッパルトの市民の皆さまと、充実した毎日を過ごし、友好親善使節団としての役割を果たし、それぞれの胸に貴重な体験と、友情という、これからの人生にとっての大きな財産を抱いて帰国することができました。

今回の訪問で、ボッパルト市では、ベアシュ市長をはじめ市役所の職員や、ロース会長をはじめとするボッパ

ルト・青梅友好協会の皆さま方、ボッパルト市民の方々から、心こもるおもてなしを受けました。

特に、私を教会での素晴らしいコンサートにご招待いただいたベアシュ市長夫妻、私のホームステイを引き受けていただいた、ベラさんには大変お世話になりました。

半世紀にわたる、ボッパルト市との姉妹都市提携、交流が、今後さらに拡大し、ボッパルト、青梅市民相互の友情が深まるようにしていきたいと思います。



Danke Schön!!

青梅市立第一中学校2年

清水 結

ボッパルト市への青少年友好親善使節団員としての10日間は、私にとって、楽しく、充実した宝物になりました。

ドイツに着いたことを実感したのは、ボッパルト市からの迎いのバスに乗っていた時です。ボッパルトに近づくにつれて、街並みも可愛らしさが増していき、わくわくする気持ちでいっぱいになりました。

ホストファミリーのおばあさんは、まったく英語が通じず、初めのうちはとても焦ったり、困ったりすることがよくありました。しかし、言葉がわからなくても、身振り手振り等をするすることで、会話が成り立ちました。

日中は、様々な体験をさせていただきました。マルクスブルグ城見学、スキンケア商品を扱うセパファーマー工場の見学、ごみ処理場見学、ボッパルト市内やコブレントツ、ケルン等の大都市の見学。本当にたくさんプログラムを組んでいただきましたが、一番の思い出は、カントギムナジウムを訪問したことと、ボッパルト市と友好協会が開いてくださった友好パーティーです。

カントギムナジウムでは、事前研修から準備してきた「青梅の祭りについて」の発表をしました。発表する時の衣装の浴衣を着てカントギムナジウムに行ったので、通学途中の生徒たちに見られて恥ずかしかったです。しかし、発表をカントギムナジウムの生徒たちが真剣に聞いてくれたのでとても嬉しかったです。久保さんと吉崎君のお囃子の実演も、カントギムナジウムの生徒の印象に残ったことと思います。その後、フランス語の授業を見学しましたが、私の学校の授業とは違いがありました。まずは授業の進め方です。詳しい事は分かりませんが、日本では教科書の内容に合わせた授業が中心ですが、カントギムナジウムでは、テキストに縛られない授業をしていました。そして、授業そのものや先生、生徒みんなが明るく、生き生きとしていて、発言が飛びかい、それでいて態度は真剣でした。わたしもこのような授業を受けたいです。

友好パーティーでは、同じテーブルに座った子たちと片言ながら、頑張って英語でおしゃべりして、ボッパルトの子たちとすぐに打ち解けられました。友好パーティーで披露したソーラン節は、団員だけで踊った後、ボッパルトの方たちと一緒に踊りました。その後、ドイツの簡単なダンスを教わって、みんなで手をつないで踊りました。とても盛り上がり、ますますドイツから帰りたくない！という思いが強くなりました。

最終日、空港まで見送りに来てくださったホストファミリーの皆さんと、ハグして泣きました。本当に別れ

るのがさびしかったです。

私は、旅の醍醐味は「出会い」だと思います。ボッパルトの方との出会いは、私の人生でも特に素晴らしい物となるでしょう。私の将来の夢は、世界に通用するファッションデザイナーになること、そしてまたボッパルト市を訪れることです。それまでにもっときちんと英語やドイツ語を勉強しようと思います。

ボッパルトの皆さん、Danke Schön!!



ボッパルトの派遣を終えて

青梅市立第二中学校3年

古川 真菜

私が今回団員に応募した理由は二つあります。一つ目は、私は今まで人前に立って話をすることや、自分から積極的に関わることが苦手で、そんな自分を変えたかったからです。二つ目は、英語が好きで、外国に興味があり、他言語を使って異文化を体験し、この経験を通して大きく成長し、将来に役立てたいと思ったからです。

この二つの目標を持って訪れたボッパルトでは、今まで勉強した英語が出てこなくて、電子辞書で調べた言葉も通じず、言葉の壁を強く感じました。もっと話をしたいのに、言葉が全然出てこなくて悔しい思いをたくさんしました。しかし、時間がたつと緊張も解れ、ジェスチャーを使って自分の意思を伝えられるようになりました。日本だとすぐ伝わるようなことも、普段の倍の時間をかけて相手に伝えるのが大変でしたが、相手に伝わった時はすごく嬉しかったです。

ホームステイ先のおばあさんは一生懸命日本語を使ってくれました。「いただきます」「おやすみなさい」「もしもし」などを笑顔で言ってくれて嬉しかったので、私も知っているドイツ語で一生懸命喋りました。言葉の壁があっても、相手に伝えたいという気持ちを持って、一生懸命伝えれば相手にも伝わったので、コミュニケーションを取ることの喜びや大切さを学ぶことが出来ました。

私が滞在中に一番心に残っている事は、ボッパルト市と友好協会が主催のパーティーです。パーティーの中で歌を歌うプログラムがあり、日本語で「ハナミズキ」を歌いました。当日は急きょアカペラで歌うことになり、緊張したけれど最後まで歌うことが出来ました。他にもソーラン節を踊りました。ボッパルトに行く前の事前研修で、ソーラン節をたくさん練習したので、踊り終わった後は疲れたけれど、ボッパルト市の皆さんが拍手や「ブラボー」と言って喜んでくれたので、練習して良かったと思いました。みんなとても生き生きとしていて、楽しい時間を過ごすことができ、より交流を深める事ができました。

毎日があっという間だったので、帰国してからはドイツに戻りたい、ホストファミリーにまた会いたいという気持ちでいっぱいです。ボッパルト市はライン川や街並みをとても大切にされていて、ホームステイ先もとてもおしゃれで居心地が良かったです。滞在中は自分がおとぎの国に迷い込んだと思うほどきれいな街並みを毎日見る事ができ、不思議な気分でした。

私はドイツに行く前は、外国は日本と違い、治安な

どに不安がありましたが、実際に行ってみると、ボッパルト市は青梅市に似ていて治安も良く、ホストファミリーをはじめ出会った人々はどの人も親切で、優しさをたくさんもらいました。

最後になりますが、私たちが怪我無く、無事に10日間過ごすためにいろいろな準備をしてくださった市役所の皆様方、そして私たちを支えてくださった保護者の方々、この場をお借りしてお礼申し上げます。中学生でこのような貴重な体験ができたことに感謝します。本当にありがとうございました。



青少年友好親善使節団に選ばれた時、私はとても光栄に思う気持ちと同時に、不安に思う気持ちがありました。しかし、使節団のメンバーは皆明るく、とても優しくてだんだんとボッパルトへ行くことが楽しみになっていきました。

ボッパルトに着いて最初感じた事は、やはり言葉が通じないということです。私と仲良くしてくれようと一生懸命英語で話してくれているのに、伝えたいことが英語で言えず、とても悔しくなりました。しかし、会話の中で私の持っている楽器について話した時は、なんとか英語を聞きとることができ、単語でしか話せないけれど、身振り、手振りを交えながら自分の思った事を言うことが出来ました。私は自分の好きな音楽についてたくさん話せたことが嬉しくて、英語で会話することの楽しさを感じられるようになりました。そして私は好きなことやどうしても伝えたいことは文法が間違っているけど、単語だけでしか言えなくても、ジェスチャー等で大体の事は伝わるということを学びました。次に会った時はちゃんと英語で伝えられるように、私はもっとたくさん英語の勉強をしなければいけないと強く感じています。

また、ボッパルト市を散策して思ったことがあります。それは、ボッパルトと青梅の景色が少し似ているということです。ボッパルトには、ライン川が近くに流れており、青梅には多摩川が流れています。そしてボッパルトも青梅も緑が多く、自然がとても豊かである点も似ているところと言えます。私は青梅に帰ってからは、ついついボッパルトと似ているところを探してしまいます。これからもこの美しい自然が、いつまでも残ってくれればいいなと思います。

ボッパルトで過ごした日々は、長いようで短く、とても充実した日々でした。リフトやボートに乗れなくなる等のハプニングもありましたが、ボッパルト市の皆さんや、団長の池田副市長、引率して頂いた並木さんと小林先生、そして団員の皆のおかげで一日一日を楽しく過ごすことが出来ました。本当に感謝しています。ボッパルトで経験し、学んだことは、きっとこれからの人生を生きるための貴重な糧となると思っています。

今回ボッパルトへ行ったことで、私の外国へのイメージは変わりました。以前は、外国は危険そう、言葉が通じないのでは、という不安ばかりであり外国へ行くことに興味を持ちませんでした。しかし、ドイツに行き、たくさんの人と交流したことで、私は海外へ行くことの楽しさを知ることが出来ました。私にとって本当に良い経験になったと思っています。私は今回の派遣がきつ

けで、ボッパルトについて興味を持ちました。これからこの友好関係が長く続けられるように、私も積極的に、協力していきたいと思っています。



Danke Schön!!

青梅市立西中学校 2年

駒澤 由芽

今回のボッパルト派遣で、私がお世話になった方々に言いたいことは「ありがとうございました」しかありません。この派遣で、私は本当にたくさんの事を学ぶことが出来ました。そして新たな目標が生まれました。

行く前は、言葉が通じるかとても不安でしたが、向こうのホストファミリーやお世話になった方々は、私のあべこべな英語でも一生懸命分かろうとしてくださりました。私も必死で伝えようとし、やっと伝わった時には言いたいようもないほど嬉しかったです。このようなことがきっかけで私には「英語をもっと頑張ろう」という目標が出来ました。そして今度来た時には、もっとすらすらと話せるようになりたいと強く思いました。

プログラムの中で、一番心に残ったのは、友好パーティーです。多くの人と名刺を交換したり、自分で持って行ったキャンディを配ったりしました。披露した歌とソーラン節、ラジオ体操もすごく好評で、疲れたけど嬉しかったです。特に「ローレライ」をドイツ語で歌った後には、拍手喝采で飛び上がるほど嬉しかったです。

ホストファミリーの方たちもすごく優しくかったです。ベジタリアンだったけれど、私にはそれが丁度良くて、母が工夫して持たせてくれたお菓子も、とても喜んでくれました。一番年上の16歳のマレットさんは、いつも一緒に来てくれたり、物を買ってくれたりして、家でもよく一緒に過ごしました。本当に感謝しかありません。

フリータイムの日の朝、私は持っていった味噌で味噌汁を作ってあげました。みんな味噌汁を飲むのは初めてで、恐る恐る飲んでいましたが、お父さんがおかわりしてくれてほっとしました。この日、家族で車に乗ってちょっと田舎のお城に行きました。ガイドの方の説明は全てドイツ語で分かりませんでした。お父さんやマレットさんが英語で通訳してくれました。分からない単語もあったけれど、だいたい理解できて、「リスニング力が上がったかな」と嬉しかったです。

お別れのときは本当に悲しくて、フランクフルト空港で泣いてしまいました。「また来るから、泣かないよ」とマレットさんにも言っていたのに涙があふれて止まりませんでした。最後、マレットさんとその妹のイーダさん、マレットさんの友達の子とハグをして別れました。とても悲しかったけれど、「絶対また来よう」と思いました。

今回学んだことで一番大きかったのは、「自分みたいに英語がまだまだ未熟でもがんばれば会話が出来るんだ」と感じたことです。今後も怖がらずにいろいろ挑戦して、自分の語学力を磨いていきたいです。そしてドイツの同

じ十代頃の子を見て思ったこと、「自分を信じる」そして「自分の可能性を信じて進んでいく」事を心に留めて、これからも頑張っていきます。Danke Schön!!



たくさんの経験を経て見つけた目標

青梅市立第六中学校 3年

吉崎 竜司

僕は今年の夏、青少年友好親善使節団員としてボッパルトに行ってきました。学校でこの派遣団員の募集をしていたころ、自分にはまだ目標や将来の夢などはありませんでした。そこで何か見つけようと、この使節団員に応募しました。

しかし、初の海外では知らない事だらけでした。

事前研修でドイツ語も勉強しましたが、実際行ってみると上手く言えず、英語も苦手で伝えたい事を上手に言えませんでした。なんとかジェスチャーを使いながら話すと伝わりました。ホストファミリーはみんな愛情表現がすばらしく、僕にも優しくしてくれて、日々いろいろ話しかけてくれたり、教えてくれたりととてもお世話になりました。

そして二日目の市内観光で思ったことは、家が本当におしゃれで青梅とは違うなと驚いたことです。

また、市内のいろんな所に十字架がありました。宗教でも日本とは違うんだなと思いました。さらに食文化も日本とは違い、ボッパルトではお米は無く、パンやソーセージ、ポテトが出てきました。ポテトにはマヨネーズをつけて食べましたが、とてもおいしく、マヨネーズの味が日本と違いました。

そして飲めませんでしたが、ボッパルト市はワインが有名でした。また、ドイツのジュースのほとんどが炭酸入りで、ファンタやコーラなどは日本とはまた違う味がしました。

カントギムナジウムを訪問した時、歌やソーラン節の発表のほかに、僕は日本のお囃子をやりました。とても緊張しましたが、日本の文化を伝えられたので嬉しかったし、たくさんの外国人に見られるという経験はないと思うのでよかったです。

発表の後、フランス語の授業を見学し、一緒に学ぶことが出来ました。カントギムナジウムのみなさんは、本当に優しく良い人ばかりでした。

歓迎パーティーではたくさんの友達が出来ました。ここでもソーラン節を踊りました。しかし、「かまえ」と言うはずが、「セット」と緊張のあまり言ってしまいました。恥ずかしかったのですが、盛り上がったので良かったと思います。その後、ドイツの方々と一緒に踊りました。心が一つになったようで嬉しかったです。ドイツのダンスも踊りました。すごく楽しくてダンスを覚えてしまいました。このダンスは、国や言語の違う僕たちとボッパルトの方々を一体にさせました。たと言葉が話せないとしても、こうしたダンスやジェスチャーでコミュニケーションが取れる事を学びました。このコミュニケーシ

ョンの取り方を学んだので、楽しく過ごすことができ、ホストファミリーの支えがあったからこそ、8日間過ごせたと思います。この経験で、出来ない事は無いと学びました。

今回ボッパルトに行き、自分に目標が出来ました。それは志望校や、ボッパルトにまた行くこと、ホームステイを受けたりすることです。御協力いただいたみなさん、ありがとうございました。



ボッパルトへ行き感じた事

青梅市立第七中学校 2年

高野 杏梨

私は、まさか自分が学校の代表に選ばれてボッパルトに行くことが出来るなんて、思ってもいませんでした。自分が選ばれたと聞いた時は嬉しいという気持ちと、これからどうすれば良いのかという不安な気持ちでいっぱいでした。

第1回の事前研修では、どんな子がいるのか、みんなと仲良くできるだろうかなどの不安な気持ちでいっぱいでした。最初の研修はとても緊張していましたが、2回目の研修からは、とても楽しみな気持ちでいっぱいでした。研修を重ねていくうちに、ボッパルトへ行きたいという気持ちが強くなっていきました。

約12時間のフライトを経て、フランクフルトに着き、バスでボッパルトへ向かいました。ホームステイ先の人がどのような人かあまりよく把握していなかったので、会うときはとてもドキドキしました。でも、実際に会って生活してみると、言葉の壁はありましたが、ホームステイ先の方々が一生懸命に私たちに伝えようとしてくれて、とても嬉しく暖かさを感じる事ができました。

私はボッパルトへ行き学んだことがあります。

1つ目は英語力です。私は、ボッパルトへ行く1つの目的として、英語力を確かめる事を目的としていました。日本で勉強しているとすぐに出てくる単語も、ボッパルトへ行き、いざ話してみるとなかなか単語が出てこなくて、上手く話せませんでした。でも、上手く話せなくても、相手に自分が思っている事を伝えるということを頑張りました。この事で私は、上手くなくても、相手に自分の意思を伝える事の大切さを学び、もっと英語を勉強し上手に話せるようになりたいという気持ちが生まれました。

2つ目は優しさです。ボッパルトの人たちは私たちがわかるまで丁寧に説明をしてくれたり、私たちのあまり上手ではない説明を一生懸命理解しようとしてくれました。それに買い物をして荷物が多くなってしまったときに、荷物を持ってくれました。この事を通して私は、毎日の生活で分からない事を理解できるように頑張ることや、いつも勇気がなくて出来ない、電車やバスで席を譲ること、さりげなく荷物を持ってあげる「優しさ」を身につけていきたいと思いました。

今回私は13歳という年齢でドイツ、ボッパルト市へ行かせていただきました。中学生で海外へ行くことが出来るということはとても貴重な事だと思います。ボッパルトへ行き改めて日本の良さを知ることが出来ました。

私は今回の使節団のリーダー、団員の一員になれてとても幸せです。

これからも今回の経験を大切により良い日本の社会を作れるように頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。Danke.



私が出た大切なもの

青梅市立霞台中学校3年

中野 宇佐美

私は今回、第15回青梅市青少年友好親善使節団の一員として、ドイツのボッパルト市へ行き、素敵な時間を過ごしました。

今回の体験を通して私が出たものは三つあります。

一つ目はコミュニケーション力がついたことです。

私のホームステイ先は、一人暮らしのおばあちゃんです。英語は全く喋れず、全ての会話がドイツ語でした。発音もあまり上手にできず、最初はなかなか意思の疎通ができませんでした。何日間か経過していくうちに、だんだんに伝えたいことを、身振り手振りを加えて伝えられるようになっていきました。そんな風に経過していたら大事なことが見えてきました。

確かに言葉が喋れたら、たくさんコミュニケーションが取れていいと思いますが、伝えたいという気持ちさえあれば思いは伝わるんだということを知り、話すだけ話してみようと積極的に話しかけました。

すると、どんどんコミュニケーションがとれて、会話が楽しめるようになりました。コミュニケーション力が前よりもついている自分にとっても驚きました。これからは、色々な言語の人とコミュニケーションをしていきたいと思っています。

二つ目は英語での会話力がついたことです。ドイツ語での会話は厳しいけど、若い人となら、英語で会話することができました。友好の夕べでドイツ人との交流を深められた時は本当にうれしかったです。それができたのは何とか仲良くなりたいと思って努力したからこそだと思います。

一番楽しかったのは、パーティーの時に女の子みんなが好みの男の子の話をした事です。ドイツの女の子へ、日本語を英語に訳して伝えたり、逆に、ドイツの女の子の話を日本語に通訳して一緒に盛り上がる事が出来たのは、英語での会話力が成長してきた証拠だと思いました。コミュニケーション力だけでなく、こうした英語での会話力もついたのでうれしいです。

このように、さまざまな面で私は成長することができました。それは間違いなくボッパルトでの体験があったからだと思います。

でも、この二つよりも、もっともっと大事なものを得ました。それは団員みんなと、海外の友達です。ホームステイ先のおばあちゃんのお孫さんのソフィーとヴィオラ姉妹。ジョニーとオリビア姉弟。ボッパルトの観光だけでなくケルンやハイデルベルク、空港にまで来てくれました。多くの人との出会い助けがあったから、この旅は充実しました。ここで出会った素晴らしい友達との交

流をずっと続けて、これからのボッパルトと青梅の交流の架け橋になればいいと思います。

ボッパルトの方々にたくさんお世話になったので、次は私がボッパルトの人たちをおもてなし、歓迎したいと思っています。

素敵な経験をさせていただき、ありがとうございました。



ボッパルトに行ってみて

青梅市立吹上中学校 3年

小嶋 ゆず

私は今回青少年友好親善使節団としてボッパルト市に行けて本当に良かったです。今回の経験は私を大きく成長させてくれました。私がこの使節団に応募した理由は、初めて会う人たちの中に入ると自分の意見をあまり言えない事が多く、そんな自分を変えたかったことと、もっと外国の事を知りたいと思っていたからです。

行く前は、自分がドイツ・ボッパルト市にいるイメージが全くありませんでした。でも、空港からボッパルト市に向かうバスで見た景色は、ドイツのきれいな街並みで、「ああ、本当に来たんだな」と感じました。

私が印象に残っている思い出は二つあります。

一つ目はホームステイしたことです。私は二人姉妹の四大家族のお家にホームステイしました。最初に広場で、ホームステイ先のお父さんと、姉妹の妹のナディンヌさんが迎えてくれました。二人とも笑顔で出迎えてくれたので、それまで不安だった気持ちは安心と大きな期待の気持ちに鳴りました。初めのうちは英語を聞き取れなかったり、自分の言いたいことをうまく言えなかったり、もどかしかったのですが、家族のみんながジェスチャーして伝えてくれたり、ゆっくり英語を話してくれました。その優しさが嬉しく、だんだん会話もできるようになりました。トランプを一緒にやったり、ナディンヌさんのギター教室に連れて行ってもらったりして、とても楽しかったです。普通の旅行で来ただけでは、現地の人との交流も少なく、実際の生活を見ることも出来なかったと思います。ホームステイできた事は、楽しくて良い経験になりました。親切にしてくれたホームステイの方にはとても感謝しています。

二つ目は四日目の友好パーティーです。ソーラン節を踊った時、ボッパルトの人みなさんは大きな歓声と拍手をしてくれました。また、二回目はボッパルトの同年代の人たちも一緒に踊ってくれました。そして、ドイツの曲に合わせてみんなで踊ったりもしました。言葉で通じない部分は音楽で友好を深められたと思います。同年代の人たちと仲を深められたことは、とても嬉しいことでした。

今回の派遣で私は、完璧に言葉を話せることがすべてではないと思いました。英語やドイツ語を話せば、もちろん会話もスムーズですが、完璧じゃないからこそその事もあると学びました。単語をたくさん並べて、言いたい事が通じた時の喜びや、上手く伝わらないからこそ、分かろうとする心の大切さを学ぶことが出来ました。しかし、会話をもっとしたいと思いました。そのためにもこれからはたくさん英語を勉強しようと思いました。

今回心を通じる大切さを知ったので、次ボッパルトに行く時は心と会話で友好を深めたいと思います。今回の派遣で多くの発見がありました。学ぶこともたくさんありました。本当に充実した日々でした。

そして団員のみんなと楽しい、素敵な思い出を作れてよかったです。本当に明るいメンバーで毎日が楽しかったです。最後にこの派遣に携わった全ての方に感謝します。皆さんありがとうございました。



ボッパルトへの派遣を通して

青梅市立新町中学校3年

長塚 咲季

ボッパルトに到着した時、まず目に飛び込んできたのが「ようこそ SAKI」と書いてある紙でした。それだけで緊張が和らぎ、同時に自分から積極的に関わってみようと思えました。ホームステイ先の家に着くと、日本語で挨拶してくれたり、「食べる時は何と言うの?」と聞いてくれたり、味噌汁を出してくれたりしてくれました。温かく迎えてもらったので、初日から溶け込むことができました。

私がボッパルトで感じたことは、3つあります。1つ目は、自分から積極的にコミュニケーションを図ることの大切さです。私は今まで自分から行動を起こすことや自分の考えを人前で言うことが苦手でした。しかし、ボッパルトでは私と同年代の人でも自分の意思をもっていました。初めは緊張しましたが、ホストファミリーのブラーガーさんは優しく、私が話しかけると視線を合わせてうなずきながら聞いてくれました。私の言いたいことや伝えたい思いを理解しようとしてくれました。お互いに何とか分かり合おうとしたことで普段より有意義な会話になりました。相手の目を見て自分が思っていることをはっきり伝えるというのはとてもいい文化だと思いました。

2つ目は、言葉が通じなくても気持ちは通じるということです。「友好の夕べ」では、ドイツ人も日本人も関係なく踊りました。ダンスに言葉は必要ないので、心や体で純粋に楽しむことができました。ダンスを踊っただけで人と打ち解けることができ、心が通じたように思いました。また、ジェスチャーもたくさん使いました。日本ではあまり使わないので、初めは恥ずかしかったのですが、家族同士で普通に使っていたので、すぐに慣れました。ジェスチャーは言葉と同じ位大切なものだと感じました。

3つ目は、ドイツと日本の文化の違いです。ボッパルトの人達はみんな友達のようなのでした。道ですれ違った人に挨拶するのは当たり前、私のホストファミリーは車の中からも手を振ったり、時には止まって話をしたりしていました。初めて出会った私にも笑顔で握手を求めてきました。日本ではあまりないことだったので戸惑いましたが、笑顔で温かく迎えられているのがよく伝わり嬉しくなりました。

今回の派遣で、私は自分が知らなかった世界を知り、視野を広げることができました。そして、文化も生活も言葉も違う人達と通じ合えたことに言い表せない位感動しました。

初めて訪れた町、出会った人達。私のことを知らない

のにもかかわらず温かく受け入れてもらえた時に感じた喜び。私と同じような喜びを感じてもらいたいという気持ちが強くなりました。また、人と人をつなぐ仕事をするという将来の夢に近づく大きな一歩となりました。この貴重な機会をくださった青梅の方々、ボッパルトの方々に感謝します。ありがとうございました。



ボッパルトで感じた事

青梅市立泉中学校2年

井上 小百合

私はボッパルトへの派遣で、多くの経験をさせていだきました。その全ての経験は心にずっと残る素晴らしいものでした。

ボッパルト市に着いてホストファミリーの方に会々と、本当に優しい人でとても安心しました。家に着くと、家族が全員そろってほっこりとした雰囲気とても良い家だなと感じました。そして、これからの生活がとても楽しみにになりました。

しかし、生活してみると、言語の違いというものを感じ始めました。私のホームステイ先には日本人の方がいましたが、ご近所の方との付き合いが多く、英語を話す機会が多くありました。ホームステイ先の家の裏の家に住んでいるパウラさんと一緒に公園に行った時、初めは上手く英語が出てこず、パウラさんが首をかしげてしまうこともありました。しかしあきらめずに単語だけでも伝えと、パウラさんにも分かってもらえました。その後も文法は正確ではありませんでしたが、遊びながら楽しく会話をすることが出来ました。また、友好パーティーでも、現地の人がピアノのネックレスに気付いてくれて、そこから会話をすることが出来ました。

このことは、言葉が通じた時の喜びを経験させてくれました。それと同時に、もっと英語を勉強してもう一度ボッパルトへ行き、今回お世話になった方たちに感謝を伝えるという目標もできました。そしてコミュニケーションを取る時には言葉だけでなく、「伝えたい」という心も必要だと学びました。

もう一つボッパルトで感じた大きなことがあります。街がきれいだということです。それは街並みの事でもあります、自然の事でもあります。街並みの面では、建物がみんな可愛らしく、絵本の中に入ったようでした。日本の建物とは全く違うので、とても驚きました。また、自然の面では、空気が澄んでいるなと思いました。私のホームステイした家は山の方にあり、朝焼けや夕焼けがとてもきれいでした。そして毎日森の中を歩いていましたが、ある日木々の方からキツネが飛び出してきました。私は野生のキツネを初めて見たので驚きました。また、森に鹿もいると聞きました。このように野生の動物が、人が通るすぐ側にいるというのは、環境が良いのだなと思ひ、青梅ではなかなか出来ない経験だと感じました。

今回の派遣は初めての経験ばかりでしたが、たくさんの方と交流することが出来ました。これからも青梅とボッパルトの姉妹都市交流を続けていきたいと思ひました。今までにない最高の思い出が出来ました。団員の皆さん、今回の派遣に協力してくださった方々に本当に感謝しま

す。ありがとうございました。



ボッパルトに行って学んだこと

明治学院東村山高等学校2年

楠見 奈都子

ボッパルトで過ごした日々は、今までで一番私を成長させてくれるものでした。毎日が新鮮なことばかりで、驚きと感動と興奮で溢れていました。特に衝撃を受けたことは、ボッパルトの方の優しさと、子どもたちの姿でした。

ドイツ語を話せない私がやっていけるのだろうか？と最初はとても不安でした。しかし、生活が始まってみると、それが余計な心配であった事が分かりました。常に周りの人が助けてくれて、楽しい時間を過ごすことができました。

特にホストファミリーのナス家の皆さんは、私のことを本当の家族として温かく迎え入れてくださいました。一緒にご飯を作り、ショッピングに行き、似合う洋服を選び合ったりしました。特にお墓参りに連れて行ってもらったときは、家族の一員として接してくれている感じがして、とても嬉しかったです。

また、市内観光、マウンテンバイクでサイクリング中に転んだときは、家族みんなが自分の自転車を置いて駆け寄り、私以上に心配してくれました。さらに、町の方も心配して駆け寄ってきて、レストランの中にいた方は救急箱を持って出てきてくれました。私はボッパルトの人の優しさに触れて感動し、知らない人でも困っていいたら助けるのが当たり前という助け合いの精神に感動しました。

ボッパルトの子どもたちの姿にも、日本との違いが見られました。私は派遣中に様々な年齢の子どもと交流する機会を頂きました。ボッパルトの子どもたちは日本の子どもと比べ堂々としています。特に自分と同世代の子の姿は衝撃的でした。自分の意見をしっかりと持っていて、自信にあふれていました。私はその姿が自分とあまりにも違うことに驚き懂れました。日本の高校生にはあまり見かけないタイプのように思います。私自身、自分の意見をはっきり伝えること抵抗があり、自信を持つことができませんでした。しかし、ドイツの高校生は芯の通った目標を持っていて、それに向かって自信をもって突き進んでいました。それはまさに私が理想とする自分の姿でした。

高校二年生という将来の決断が迫られているこの時期に使節団としてボッパルトを訪れたことは、自分を大き

く変えるきっかけになりました。使節団になる前は、はっきりした目標もなく、したいことも分からず、自分の進路を決めることができませんでした。そして周りの友達が夢をもち、次々と進路を決めていくことに焦りを感じ、悩み続けていました。しかし、今回ボッパルトを訪れたことで、自分を違う視点で見ようになり、将来やりたいことを見つけることができました。また、挑戦することを学び、今までは無理だと諦めていたこともやってみようと思えるようになりました。

青少年友好親善使節団としての体験は、私の人生を大きく変える出来事でした。このような機会をいただいたこと、長年に渡りボッパルトとの友好を結んでくださっている方々、私たちをサポートしてくれたすべての方に感謝していきます。ありがとうございました。



私は日本を出発するまで不安なことがありました。それは言葉の壁です。私は二年前にドイツへ行ったことがあるのですが、その際ドイツでは自分の英語はまったく理解してもらうことができず、とても大きな言葉の壁を感じました。その結果、私は海外の方々とコミュニケーションをとるのが苦手になってしまいました。自分から話しかけることができなくなってしまったのです。そこで今回の派遣では、それを克服するために積極的にコミュニケーションをとることを目標として日本を出発しました。

ボッパルトに着くとすぐに各ホームステイ先のホストファミリーの方が迎えに来てくれました。そのときの私の正直な心境は、どのようにすれば目標を達成できるのかということへの、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーの方々はとても優しい方々でした。先ほどまでの不安も緊張もすぐになりました。私のホストファミリーは同年代の兄弟がいました。ふたりとは親しくなり、ご両親ともたくさん話すことができました。

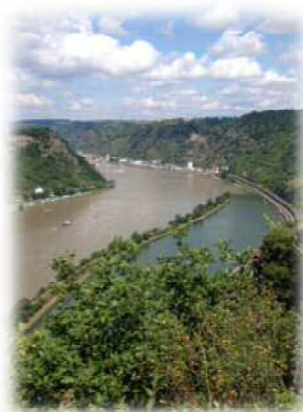
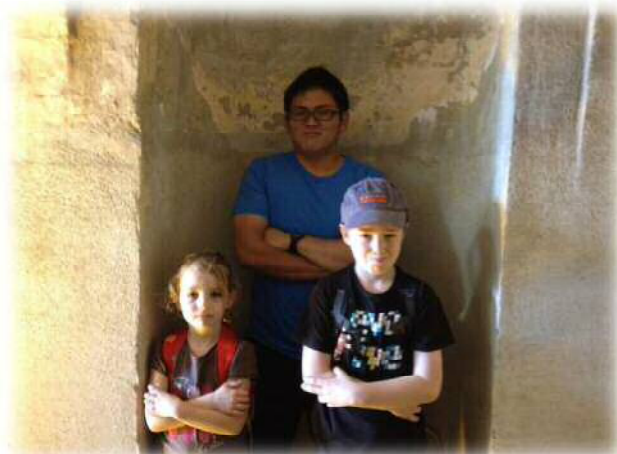
ホストファミリーとたくさんコミュニケーションをとっていくうちに、昔のトラウマも克服できていきました。一緒に時間を過ごし、話をするのはとても楽しく、また自信にもなりました。ドイツに到着後、最初に話しかけるときはとても緊張しましたが、自分の意思を伝えようとする中で、相手にも気持ちが伝わり、分かってもらえることを知りました。これは今回の派遣の中で私が得ることができた大きな最初の一步だったと思います。なぜなら、このことがきっかけでたくさんの人とコミュニケーションを図ることができたからです。一步を踏み出すだけで、こんなにもたくさんのことを知ることができるんだと、とても感激しました。

その後は、一人で買い物をしたり、道を尋ねたりとさらに積極的に行動して進歩することができました。しかし、ここでも意思をはっきりと伝えられないときは、相手には伝わらないこともありました。すぐに英語力が上達するわけではないので、伝えようとする気持ちを大切に、意思表示をすることの重要性を痛感しました。まだたくさん勉強しなくてはいいないと思いました。

私はこの派遣で、たくさんのものを日本に持ち帰ることができました。まずそれは、たくさんの楽しい思い出です。ホストファミリーの一家と過ごした日々は、私にとって忘れることのできないすばらしい宝物になりました。本当の家族のように迎えていただき、私に第二のふるさとができました。今後も交流を続けていき、楽しい

思い出を増やしていきます。次に、日本との異文化を体験したことです。その中でも、日本人にはあまり得意ではない意思表示の大切さを痛感したことです。この体験はわたしの国際交流の第一歩としてとても有意義な出来事になりました。今後、これらの体験や経験を、たくさんの人たちに伝えていきたいと思います。

最後に派遣団員と知り合えたことをとてもうれしく思います。そして何より、ドイツに行くために協力していただいた、たくさんの方々に感謝しています。ありがとうございました。私は今回の派遣で得たたくさんの経験を元に、将来の夢に向けてチャレンジしていきます。



このたび、青梅市友好親善使節団員としてボッパルト市への派遣の機会を頂き、本当にありがとうございました。

私が団員に決定した時は夢のようでした。しかしそれと同時に、青梅市の代表になるという責任感があるということに気がきました。

私が今回使節団に参加したいと強く思った理由は大きく分けて二つあります。一つ目は小さいころからボッパルト市と青梅市との友好のマークや催し物を目にしていたことです。二つ目は私の在籍していた中学校の校長先生がドイツの大学の教授をしていた事があり、ドイツの話をお聞きし、とても興味が湧いたからです。

日本を発ち、ボッパルト市に着いた私たちを、雄大な流れを持つライン川、青梅とどこか似ている緑豊かな山々、昔から変わらない独特の街並みで迎えてくれました。また、初めてのホームステイで不安でいっぱいだった私を、ホストファミリーの皆さんも暖かく受け入れてくれました。

東京では一人っ子の私が、ボッパルトのホームステイ先のお家では一度に16歳と13歳の姉妹と本当の姉妹の様に一緒に過ごし、いつもは早く寝てしまう妹が、最終日の夜は遅くまで起きていて、私の傍から離れなかった事を思い出すと今でも涙が出そうになります。

実際にその場所に住んでいる人と共に生活することにより、より深くお互いの考え方や文化、習慣を理解することのできるホームステイは、最適な機会だと思いました。

今回私は、この青梅市友好親善使節団の団員として、ボッパルト市に行き、使節団員の役目として、お互いの国を理解し合う、つまり「国際理解」を深め、それと共に友好関係を築くことが必要だと私は考えました。とても書ききれないほど多くの体験をした中で、一つ例をあげると、現地の人に連れて行ってもらったパーティーでのことです。ドイツでは学期末に山奥のコテージで打ち上げパーティーのようなものを開くそうです。慣れない英語とジェスチャーを交えながら話していると、一人の子が私にたばこを勧めてきました。私は心の底から驚き、「日本では20歳からしか喫煙はできないから」と断りました。すると、「ドイツでは16歳からなの。国によって違うのね!」と驚いた様子で、それ以上勧めることはしませんでした。その会話がきっかけで距離が縮まり、一緒にダンスをし、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

このように、良い事が悪い事などではなく、お互いの

国を理解し尊重し合うことこそ、「国際理解」なのではないかと私は思いました。この経験を生かして友好親善に積極的に関わっていきたいです。それと同時に、他の国の文化という刺激の強いものにそのまま影響されてしまうのではなく、自分の考えをきちんと持って向き合っていくことが大切だと思いました。

高校生というこの多感な時に、他の国のことを知り、そして自分の国のことを伝えるという、とても価値ある経験をさせていただきとてもうれしく思います。今回の使節団に関わる全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

